

研究課題：市町村レベルで取り組む歯周病対策事業の成果に関する調査研究（3）

－歯周病対策の実施と事業評価（住民アンケート調査）－

研究者名：飯嶋理¹⁾、田村俊彦¹⁾、中村宗達²⁾

所 属：¹⁾ 静岡県歯科医師会、²⁾ 静岡県厚生部医療健康局

【緒言】 8020 を達成する為には、う蝕対策と歯周病対策が不可欠である。前者については、フッ化物の公衆衛生的利用を核とした予防対策により地域レベルで優れた成果が認められているが、後者については未だ実績の乏しい現状にある。歯周病対策の成果が地域レベルで認められていない理由は、その予防方法や治療・メンテナンスの方法が確立されていないということではない。歯周病には公衆衛生的な対策のないことが第一の原因と考えられる。すなわち、個人衛生で地域レベルの問題を解決しようとしているため、当然簡単には問題が解決しないということである。個人衛生で地域レベルの問題を解決しようすると、必ず限界や難点が生ずる。限界とは、「できる人」はでき、「できない人」はできない、ということ。また、難点とは、一つの解決策で快刀乱麻に問題を解決できないということ。現状においては、これら限界・難点が、歯周病対策の進展を阻んでいるものと推測する。そして、この克服方法として、昨今、住民参加型事業の展開が有力視されるようになってきている。

本調査研究において、8020 を達成する為に必要な歯周病対策の有力候補である住民参加型事業を展開することにより、個人衛生対策の問題点を克服するヒント並びに具体的な実践例を得、地域レベルでの歯周病対策推進の糸口を掴めるものと考えた。

【目的】 住民参加型の歯周病対策事業などを実施することにより、上記 2 点をいかにクリアーできるかを、現場での実践を通じて検討し、一定の解答を得る。

【方法】 <全体計画と年次：3 年計画>

- ・地域：静岡県 H 市 Y 地域（テスト群：人口約 1 万 4 千人）、S 町（コントロール群：人口約 1 万人）

1 年目（18 年度）	2 年目（19 年度）	3 年目（20 年度）
<ul style="list-style-type: none"> ・歯周病地域診断（住民アンケート調査） ・歯周病対策住民組織づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民参加型等の歯周病対策事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の継続実施 ・事業評価（住民アンケート調査） ・地域間比較による評価

1 年目は、ベースライン調査として、テスト群、コントロール群の両地域において、自記式アンケート 18 問を実施した。2 年目は、テスト地域において、地域歯科診療所における歯周病予防管理モデル事業（「いきいき噛みんぐ雄踏」事業）、歯間ブラシを積極的に活用した歯周病予防健康教室（「元気な歯ぐきづくり教室」事業）などの実施に取り組んだものの、計画していた住民参加型事業を実施することはできなかった。本年度（3 年目）はベースライン調査と同様の調査を実施し、両者の結果を比較した。

【結果】 「歯科知識、行動」と「歯科診療」の 2 分野において、テスト地域、コントロール地域の値に若干の差を認めた。テスト地域で力点を置いて啓発を行なった歯間ブラシ等の使用に関して、その知識度が有意に向上した。また、テスト地域においては地元歯科診療所への受診が多いことより、歯科診療所で力を入れて啓発してきた予防受診や定期歯科管理の実施が普及したものと思われた。

【まとめ】 1 年目と 3 年目に同じアンケート調査を実施した結果、知識度、行動などについて、テスト地域とコントロール地域の各々の変化間に有意な差をほとんど見出せなかった。歯周病対策は少なくとも従来型の方法では、効率良く啓発の成果や行動の変容をもたらさないものと推測された。このため、住民参加型の地域歯科保健対策が有効視されるものの、ただし、これも実際にやってみなければ結果はわかるものではない。